



Instructions for use
Mode d'emploi

LARGE DATE
AND TOURBILLON

Calibres 2886 & 2909
Hand-wound

AP
AUDEMARS PIGUET
Le maître de l'horlogerie depuis 1875



日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています(反対側ページ参照)。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス「日本語」をクリックしてください。

1. イントロダクション 139ページ

オーデマ ピゲ マニュファクチュール

時計について

ツールビヨン

ラージサイズデイト

2. この時計について 146ページ

ムーブメント

ムーブメントの仕様

特徴

時計の表示と機能

3. 基本的な機能 152ページ

時刻合わせ

時間帯の調整

ムーブメントの巻き上げ

日付の修正方法

4. 備考 155ページ



オーデマ ピゲ マニファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷



ジュネーブの約 50 km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は 18 世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探ることを考えました。コンピェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740 年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の 1881 年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。

偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1

1875年、複雑時計の製作に情熱を傾ける2人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で2つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようとした。2人の決意、想像力、そして規律の正しさで、ただちに成功を収めました。1885年ごろ2人はジュネーブに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して拡大を続けます。オーデマ・ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば1892年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次



世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウォッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。

国際的な成功を収めたオーデマ・ピゲは、1972年にステンレススチールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウォッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル・オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一押し、1999年には見事なコレクション「トラディション・オブ・エクセレンス」を発表します。伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

時計について

このたびは、ツールビヨン ラージサイズデイト、70時間パワーリザーブをお買い求めいただきましてありがとうございます。この手巻きウォッチは、由緒ある伝統を厳格に守り続ける、弊社の時計作りへの情熱を皆様にお届けします。構成部品の仕上げ、面取り加工、研磨、部品作動、そして組み立てはすべて手作業で行われています。熟練職人の手作業のみが、このツールビヨン ラージサイズデイトに命を吹き込むことができるのです。

ツールビヨン

18世紀の後半から、最も卓越した時計師たちが時間測定の正確さを高めることに身を捧げてきました。克服すべき大きな問題は、どんなポジションでも時計が同じように調節されるようにしようとするのでした。地球の重力の関係で、垂直に配置された調節パーツ（テンプ、ひげぜんまい）は、非常にわずかな平衡差にも悪影響を受けてしまい、時計の歩度にずれが生じてしまいます。

1801年、時計製作者アブラハム・ルイ・ブレゲは、どんなポジションにあっても、歩度のずれを平衡化するツールビヨンをを用いた調節システムを考案しました。

機能の原理は、現在まで全体的には同じものです。つまり、脱進機のパーツ（歯車、アンクル、テンプ）はムーブメントに固定されており、可動ケーシングによって支えられています。



このケージは脱進機パーツによって1分ごとに一回転するため、部品全体が常にポジションを変えられるようになっていきます。こうして、重力の影響による歩度のずれを補うことができるのです。

185年後の1986年、オーデマ ピゲは、自動機械ムーブメントを用いた極薄腕時計シリーズにおいて初めてこのシステムを組み入れることに成功しました。オーデマ ピゲは今日、25のツールビヨン搭載ムーブメントを有し、このコンプリカシオンのあらゆる秘密を自在に操る、世界でも有数のマニュファクチュールとなっています。

ラージサイズデイト

このメカニズムは、トラディション オブ エクセレンス コレクションのキャビネN°2モデルで、永久カレンダーのラージサイズデイトとして初めて採用されました。キャリアバー2886と2909ではビッグ

デイトは大小の月は考慮されません。従って日数が31日未満の月では修正ボタンによる日付の修正が必要です。



ムーブメント

キャリバー 2886

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 6.53 mm

ムーブメントの寸法: 27.10 mm x 32.90 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 20

パワーリザーブ (ミニマム): 約 72 時間

手動式巻上げ

ジャイロマックステンプ

ブレゲヒゲゼンマイ (フィリップス)

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 222個

特徴

ムーブメント形状は長方形

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

手作業で仕上げを施したカットパーツ (ポリッシュ仕上げのアンクル、表にライン、ドローイング、裏にスクランブルライン)

ムーブメント

キャリバー 2909

ブリッジ側



ダイヤル側



ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 6.53 mm

直径: 33 mm

振動数: 21,600 振動/時 (3 Hz)

石数: 19

パワーリザーブ (ミニマム): 約 72 時間

手動式巻上げ

ジャイロマックステンプ

ブレゲヒゲゼンマイ (フィリップス)

可動ヒゲ持ち受け

部品数: 228個

特徴

手作業で仕上げを施したブリッジとメインプレート

手作業で仕上げを施したカットパーツ (ポリッシュ仕上げのアングル、表にライン ドローイング、裏にスクランブル ライン)

時計の表示と機能 (表紙の裏側にある図解参照)

- ① 時針
 - ② 分針
 - ③ 6時の位置にあるトルビヨン上の秒針
 - ④ ラージサイズデイト
- E 日付修正ボタン

この時計は2段階式のリュースを備えています。

- A 位置 手巻き
- B 位置 時間合わせ



時刻合わせ

リューズをポジション **B** に引き出します。時刻合わせをする時はリューズを前後に回すことができません。合わせたい時刻まで慎重に針を進めながら、正確に時刻合わせをしてください。

注意: 12時と24時を間違えないように気をつけてください。

時間帯の調整

カレンダーの調整は午前0時30分時から午後9時の間に行いますと永久カレンダーのメカニズムを損傷することなく修正できます。

午前0時より前の時刻まで針を戻す必要があるとき、日付は1日前になります。この日付の差はすぐにもとに戻るので修正をする必要はありません。

ムーブメントの巻き上げ

この時計は手巻き式ムーブメントを備えています。

2日に一度、同じ時間に時計を完全に巻き上げることをお勧めします(リューズ位置は **A**)。巻き上がったならそれ以上リューズに力を加えないよう、ご注意ください。

日付の修正方法

注意

修正ボタンを使う前に、リューズを **B** の位置に引き出し、時計回りに表示針を1日進ませます。その後、針を 午前 12時の位置に合わせます。この状態では、あらゆるメカニズムが休止状態になるので、修正ボタンを押しても暦が損傷するおそれはありません。

付属の修正用器具を用いて、日付修正ボタン **E** を、正確な表示が得られるまで押します。

修正用器具

修正に際しては必ず付属の修正用器具をご使用ください。



保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記載されています。



